

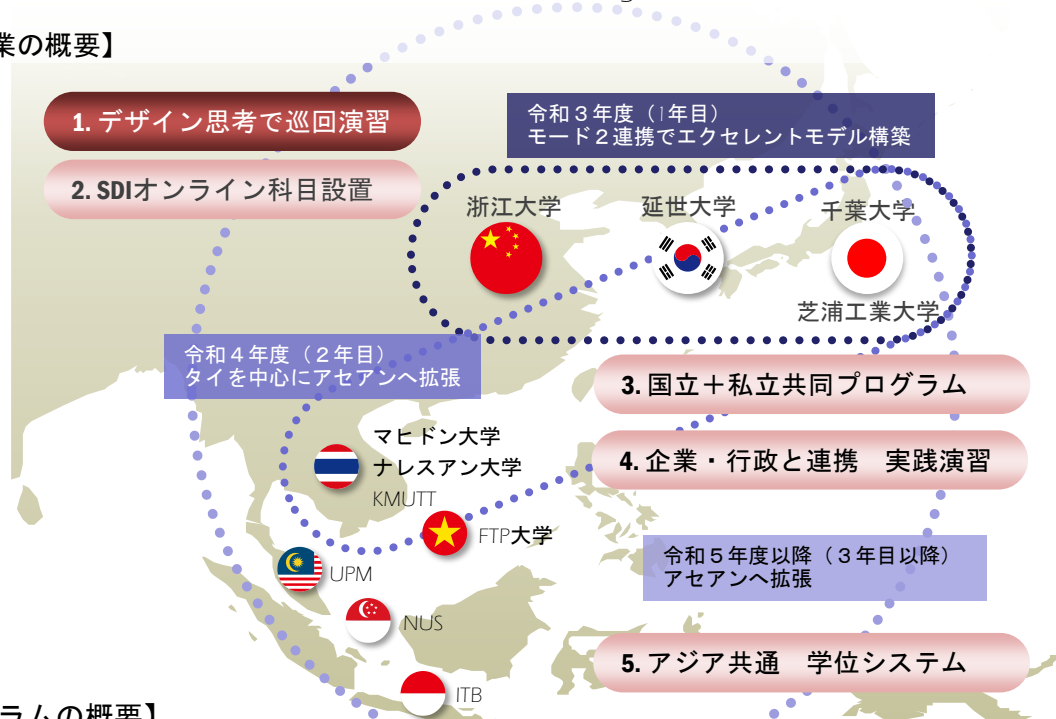
大学の世界展開力強化事業（2021年度選定）

千葉大学・芝浦工業大学 取組概要

【事業の名称】（選定年度2021年度・（タイプA①））

ソーシャル・デザイン・イニシアティブ（SDI-A：Social Design Initiative in Asia）

【交流推進事業の概要】



【交流プログラムの概要】

本プログラムでは、貧困、格差、過疎化、高齢化といった世界が抱える「厄介な社会問題（Wicked Problem）」を課題とし、同一の課題に2カ所以上で取組む。1回の派遣期間は1ターム（2ヶ月）を想定しており、学生は選択したテーマに合った2カ所の渡航先を巡る。それぞれの渡航先では毎週ディスカッションを実施し、各国の連携大学の教員のもと、連携大学の学生と共に課題を実施する。なお、現地においても、SDI-A連携大学群が提供するオンライン授業SDI科目を受講でき、学生にどこでも学習できる環境を提供する。

【本事業で養成する人材像】

課題を何度も繰り返し、その社会に相応しい解を導き出す、高度かつ反復型デザイン思考で、ソーシャル・デザイナーを育成する。ソーシャル・デザイナーは、デザインを学習するのではなく、デザイン思考を通じて課題を解決できる人材であり、デザイン以外の専門を学んでいる大学院生に副専攻の学位を取得させ、エンジニアでありソーシャル・デザイナーとして未来の日本や世界が抱える「厄介な社会問題（Wicked Problem）」を解決できる創造型人材の育成を目指す。

【本事業の特徴】

1. 反復型デザイン思考で同じ課題を2箇所以上の地域や場所で学び学習の理解を深める
2. 今いるべき場所から学べるSDI科目のオンラインシステムの構築
3. 国内初 国立+私立共同プログラム、墨田キャンパス+芝浦・豊洲キャンパスの連携
4. 全巡回型演習科目が企業や行政（地方自治体）と連携した実践型演習
5. アジア共通履修・学位システム構築のきっかけとなるイニシアティブ型プログラム

【交流予定人数】

		2021	2022	2023	2024	2025
派遣	実際に渡航する学生	0	0	0	0	0
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	0	0	6	12	18
	実渡航とオンライン受講を行う学生	12	12	18	24	30
受入	実際に渡航する学生	0	0	0	0	0
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	0	12	18	24	24
	実渡航とオンライン受講を行う学生	12	12	18	24	24

【ソーシャル・デザイン・イニシアティブ】(採択年度 令和3年度)

CAMPUS ASIA+ SDI-A

■ 交流プログラムの実施状況

新型コロナによる移動制限が続いているため、実質派遣・受入については当初の計画通りには実施できなかった。しかし、その代替として、Online Joint Design Class を立ち上げ、計画よりも多い、千葉大学の学生47人、延世大学27名、合計74名が参加した。またウェブサイトの立ち上げ、学生のリクルートシステム、連携大学のスタッフ全員が定例で参加するSDI Organizer Online Meetingなど、初年度に構築すべきシステム、サポート体制を概ね整えることができた。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

当初の計画では、SDI秋期生として、3名の派遣を計画していたが、新型コロナの感染拡大により入出国制限解除の見通しが立たなかったため、最終的には延世大学へ1名の派遣に留まった。

○ 外国人留学生の受入

当初の計画では、SDI秋期生として、3名の受入を計画していたが、新型コロナの感染拡大により入出国制限解除の見通しが立たず、一人の受入れにも至らなかった。また当初は2022年3月にSDI・インテンシブとして、18名の受入れを予定したが、出国制限解除の見通しを立てるのが困難であったため、代替授業として、延世大学と千葉大学の共同で、Online Joint Design Class “Infographic Design”を立ち上げ、千葉大学の学生47人、延世大学27名、合計74名が参加した。

	R3	
	計画	実績
学生の派遣	12	1+※47
学生の受入	12	※27

※コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

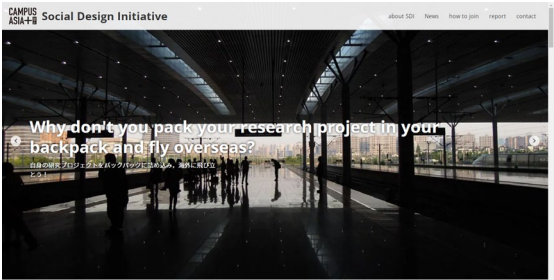
参加学生の質の保証については、専用ホームページ、全学に向け説明会を通じて広く周知を図り募集を行う。研究テーマ、渡航計画、意気込みなどを含んだ応募書類を提出させ、応募書類、面接により参加学生の選考を行う。渡航先での活動の質の保証については、週に一度、渡航先の連携大学のメンターを訪れ、1週間の活動内容についての報告を行う。また月に一度、本事業に参加している学生、メンター全員が参加するオンライン合同ミーティングを開催し、各学生の取り組みの進捗状況を確認し、活動状況について評価を行う。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

これまで旧日中韓、キャンパス・アジア(モード2)を実施し、実際に多数の外国人学生の受入及び日本人学生の派遣を行っており、制度、環境についてはある程度は整っているが、さらに改善をしていきたい。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

2020年度より“ENGINE(Enhanced Network for Global Innovative Education)”が始動され、学部・大学院生の全員留学を目指しており、ENGINEとの連携しながら本事業を推進する。情報公開については、これまでに実施してきた世界展開力事業と同様、専用ホームページを通じて、情報公開を行う。またそれ以外にも説明会を実施することにより、学生への周知を図る。



〈公式ホームページ〉

■ ズッドプラクティス等

zoom, Google Meetなどのオンライン会議システムと併用して、Google Document, Sheet, Slide、オンラインホワイトボードツール Miroを活用することで、オンラインの特性を活かした参加者全員でリアルタイムに双方向で創造活動を行えるよう工夫した。また今回、Online Joint Design Class “Infographic Design”の成果発表の場として、VRを使ったバーチャル展示会の開催を行った(<https://socialdesigninitiative.studio.site/posts/the-modern-interior-design>)。



〈オンラインVR展示の様子〉